



小中学校(約140棟)の耐震化が平成28年度までの長期化に!!

年度	補強設計済み	耐震工事済み
H12	芝樋ノ爪小、元郷中	
H13	神根東・上青木南小	芝樋ノ爪小、元郷中
H14	安行・元郷南小	神根東・上青木南小
H15	新郷小、幸並中	安行・元郷南小
H16	並木小、青木中	新郷小、幸並中
H17	元郷小、岸川中	並木小、青木中
H18	青木北・領家・芝南・芝富士・前川東・柳崎小	元郷・飯仲・原町小、岸川中
H19		青木北・領家・芝南・芝富士・前川東・柳崎小

※ 小中学校のみで建替え済み：4棟(舟戸小・南中)・補強不要：5棟(原町・根岸・安行・芝・十二月田中の一部施設)

※ 市立高校3校・幼稚園(南平幼稚園のみ)は平成18年度に耐震補強のための1次診断の実施が市の公開資料で確認済

補強工事: 2,893,800(原町小)~62,401,500円(岸川中)

■ 市立学校施設の耐震補強状況

文部科学省が今年8月6日に発表した『公立学校施設耐震化推進計画』をもとに川口市の資料(平成12年度以降)を調査したところ、川口市の公立学校施設(小中高校・幼稚園、震度6強の地震で倒壊する危険性の高い施設)の耐震工事状況などが上記のように判明しています。

文部科学省の関連資料(平成19年4月1日現在)によると、現在の耐震基準が設定された昭和56年以前に建設された川口市の公立学校施設が165棟(施設全体の77.5%・全ての耐震1次診断終了済み)、既に耐震補強済み等の施設が31棟(上記の165棟の18.8%)であることが明らかになっています。なお、耐震化率は37.1%で全国平均58.6%を下回り、残念ながら埼玉県内で57位になっています(トップは新座市、さいたま市は56位)。

■ 川口市としての計画

今年の3月議会以降、市議会での市当局の答弁で以下の対応を川口市が計画していることが判明しています。

- ・ 平成21年度に2次診断の完了予定
- ・ 平成28年度までに約140棟耐震化の完了予定

一方で市議会においては耐震化の前倒しを求める市議会議員の一般質問が複数あるが、市当局としては財源確保の課題等があるために積極的な答弁はありません。

■ 耐震補強に至るプロセスとコスト

市当局によると耐震補強の実施には、1次診断⇒2次診断⇒補強設計⇒補強工事の実施のため、少なくとも3年間が必要となり、財源確保の課題等も含めて耐震補強完了までには時間が必要であると認識しています。

また、補強工事に至るまでのコストは平成18年度の実績で次のような金額になっています。

1次診断: 568,067円(芝中)

2次診断: 2,593,500(芝中小)~8,463,000円(戸塚小)

補強設計: 2,383,500(前川東小)~6,090,000円(芝富士小)

■ 情報公開の必要性

文部科学省の『公立学校施設耐震化推進計画』では、耐震化推進に当たっての留意点(耐震診断結果の公表)として『耐震化を進めていくためには、その重要性及び緊急性について、行政関係者の他、児童生徒等の保護者や地域住民の理解を得つつ推進していく必要がある。このため、学校ごとの耐震診断の結果等を公表し、耐震化事業の推進に向けて、幅広い合意を形成していくことが重要である。』となっています。

残念ながら川口市は今回のような情報を幅広い市民がわかるように明らかにしていません。

■ わたしたち市民・関係者として実施すべきこと

公立学校施設は災害時に避難場所になることから、その耐震補強は早期に実施すべきこととなります。

わたしたちは市の予算・決算などから、川口市の耐震化計画が確実に実施されているのかを監視していくことが必要になります。また、川口市・公立学校施設の関係者は情報を丁寧に開示していきながら、市民との丹念な合意形成を実施していくべきと考えます。

■ 編集後記

今回の調査資料の詳細は、2007年11月3日付のブログ(<http://m-fujita.cocolog-nifty.com/>)に公開しております。

ふじた みつぐ ■ 経歴等 ■

昭和45年6月生まれ・37歳/川口市川口在住時、飯仲小学校/西中学校/県立蕨高校/埼玉大学教育学部を卒業。事務機器メーカー元社員
川口市の政務調査費に関する問題等への取り組みを通じて急遽、平成19年4月の川口市議会選挙へ立候補。政党・各種団体からの支援を受けず、自ら候補者名を連呼しない選挙カーを運転。選挙活動期間の1週間のみで715票を獲得。残念ながら落選。

■ 発行・連絡先 ■

フルマークス/〒332-0016 川口市幸町1-1-28-102
電話:050-3564-7863/ファクス:020-4669-2097